

■第3期教育振興基本計画（素案）について提出された意見の概要と町の考え方

意見提出番号	区分	頁	章	節	中分類	小分類	意見の概要	意見に対する考え方
1	6	2	1	2			P2 第2節 計画の位置づけ 図内の、猪名川の教育ナビゲーション の記載について、猪名川町のHP上では、猪名川町の教育ナビゲーションと記載されています。該当の冊子においては、ここでの記載同様、猪名川の教育ナビゲーションとなっています。本「猪名川町教育振興基本計画」は、猪名川町と記載されており、その他の猪名川町の計画書につきましても、猪名川町と記載されています。これを機に、猪名川の教育ナビゲーションにおいても、猪名川町と記載変更のご検討をされてもよろしいのではないのでしょうか。	教育振興基本計画第3章「猪名川の教育が目指す方向」としてありますので、「猪名川の教育ナビゲーション」とし、ホームページを修正します。
2	6	2	1	2			P2 下段の図について 猪名川町には教育大綱が策定されていますが、図の中に記載がないのは、図に記載されている行政改革大綱実施計画とは違う扱いなののでしょうか？	P2 下段の図は、教育振興基本計画を中心に、第六次猪名川町総合計画後期基本計画に関わる各種の「計画」のみ記載しております。
3	9	3	1	3			P3 第3節 計画の対象と範囲1行目 「猪名川町で育ち」のところは「猪名川町で暮らし」「猪名川町に関わり」等の方が適切ではと考えます。	「猪名川町で育ち」を「猪名川町で暮らし」に修正します。
4	6	3	1	3			P3 1行目 【「猪名川町教育振興基本計画」が対象とするのは、猪名川町で育ち猪名川町を創る、子どもから大人までの学び手です。】 の記載について、対象とするのは、の後に「猪名川町で育ち」と続くと、猪名川町で育つ人、育った人が本計画の対象者のような印象を受けないのでしょうか？	「猪名川町で育ち」を「猪名川町で暮らし」に修正します。
5	9	3	1	3			P3 同2行目 「子どもたちを取り巻く家庭や地域社会の教育」という文言では「家庭や地域社会」が教育を受ける方なのか行う方なのか解りにくいため、受ける方ならば「家庭や地域社会に対する教育」とした方が解りやすく、また行う方ならば「大人」に対する教育についての記述が必要ではと考えます。	教育が行われる場・機会について記載しています。 「子どもたちを取り巻く家庭や地域社会の教育」を「子どもたちを取り巻く家庭や地域社会での教育」に修正します。
6	6	3	1	3			P3 3段落 1行目 【「誰でも」が、人生の中の「いつでも」、家庭・学校・職場など「どこでも」行うすべての学習が、生涯学習です。】 の文章の、「誰でも」が、とありますが、後に続く文を読んだときに少々違和感があります。例えば、【が】を抜いて、「誰でも」、人生の中の「いつでも」、(略)。若しくは、「誰も」が、人生の中の「いつでも」、(略)。など、ご検討ください。	検討した結果、修正の必要はないと判断いたしました。
7	6	4	1	4			P4 計画策定の体制 本計画策定委員の選出区分がP44に記載されていますが、当ページの相関図の関係団体の箇所に、学校運営協議会、小学校校長会、中学校校長会、幼稚園園長会、町住民が記載されていません。	ご指摘の箇所に、「学校運営協議会等」を追加します。
8	9	8	2	1	(1)		P8 コミュニティ・スクールの項 コミュニティ・スクールと聞いて、意味を知らない人は異なったイメージを持つのではないのでしょうか。用語集に説明はありますが、文部科学省のHPにあるように「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」と表記したほうが解りやすいと考えます。	巻末の用語集にてコミュニティ・スクールについて説明しております。
9	6	8	2	1	(2)		P8 コミュニティ・スクール 1行目 協働して人づくりと地域づくりを進めるため・・・ とありますが、人づくりという表現は適切でしょうか。 ここで言う「協働して人づくり」というのは、協働できる人を増やすということでしょうか？ 人はつくるもの、つくられるものではなく、育つ、成長するものなのでは？ つくる（構築する）というの、人と人、人と組織、人と地域の関係性、信頼や絆なのでは？	ご指摘の箇所の表現については適切と考えております。「協働して人づくり」というのは、協働できる人を増やすということではありません。
10	5	9	2	1	(2)	①	P9(2) 猪名川町独自の学習到達度調査の成果については記述されていないが、どれほどの費用対効果があったのか知りたい。	学習到達度調査の結果はホームページにて公表しています。 学習到達度調査は児童生徒の学習状況を調査し、個々の児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる目的で実施しています。個々の学力向上に係ることであり、費用対効果として数値で表すことは難しいです。
11	9	9	2	1	(2)	①	P9 ①確かな・・・ 当初基本計画では「各種調査結果の分析と共有」を第一に掲げているにもかかわらず振り返りの結果として1つの調査項目の記載に終わっているのは振り返りとしては弱いと感じます。またこの項目にかかわらず計画では具体的な取組について記載があるのに対し振り返りでは具体性が少ないように感じます。	本計画では、教育に関する取り組みのすべてについて、振り返りを記載してはおりません。毎年猪名川町教育委員会点検・評価にて詳細な振り返りを行っておりますので、ご参照ください。 また、全国学力状況調査の結果については、詳細な分析を毎年行っており、学校とも共有しています。

番号	意見提出番号	区分	頁	章	節	中分類	小分類	意見の概要	意見に対する考え方
12	10		9	2	1	(2)	①	P9 (2) 施策ごとの振り返り 1 確かな学力を培う教育の推進—いなぼう学力アッププラン— 猪名川町では小5と中2で独自の学習到達度調査を実施していました（2024年度は読解力調査）が、それが学力の向上につながっているのでしょうか。このことについての記載がなく、成果や課題が見えません。 前回の（現）教育振興基本計画に沿って、いなぼう学力アッププランは策定されているが、今回は変更があるのか？	本計画では、教育に関する取り組みのすべてについて、振り返りを記載してはおりません。毎年猪名川町教育委員会点検・評価にて詳細な振り返りを行っておりますので、ご参照ください。 「いなぼう学力アッププラン」は、前年度の状況を参考に毎年度更新しています。今後も年度ごとに更新予定です。
13	6		9	2	1	(2)	②	P9 ②豊かな心を育む教育の推進 3行目から4行目 小学6年生で95.5%、中学3年生で89.7%と、全国（小6：91.6%、中3：88.1%）を上回っています。について、（）書きで全国の小6、中3の%を纏めて記載されていますが、5行目以降では、小6、中3それぞれの後に全国の%が記載されています。同じく、P11の8でも、小学校、中学校の全国の%が纏められており、9では小学校、中学校それぞれの後に記載されています。ご確認ください。	小学校と中学校の結果が全国より上回っている場合と下回っている場合があります、このような表現となっておりますので、修正は行いません。
14	10		10	2	1	(2)	⑤	P10 ⑤特別支援教育の充実 「猪名川の教育オープンセミナー（旧特別支援教育公開講座）」については、猪名川町としてインクルーシブ教育を大切にしようとしていることが毎年の内容からも伝わってくる大変意味のある講座だと考えている。引き続き、その点を大切に内容で継続して欲しい。猪名川町がめざすものは文科省の言うインクルーシブ教育システムではないと考えている。 きめ細かな支援方法とあるが、現振興基本計画の中で、特別支援学級の支援員の勤務時間が短くなり、それ以前のような支援ができなくなった。このことについては矛盾を感じている。きちんと検証して欲しい。	国の教育振興基本計画「目標7」を参考に、本計画第4章第2節4 ②のとおり特別支援教育を推進してまいります。 計画については、毎年、点検評価を実施してまいります。
15	6		10	2	1	(2)	③	P10 4行目 【小5男子を除き】の記載について、本ページ2行目では、全小学校4～6年生・・・と記載されており、前ページでも小学6年生、中学3年生と記載されています。小学5年生男子と記載されるのがよいのでは。	「小5男子」を「小学5年生男子」に修正します。
16	9		10	2	1	(2)	④	P10 ④いじめ、不登校への対応・支援 いじめ対応チームの運用による結果について数字を揚げて積極的認知が進んだと説明されていますが、いじめ自体が増加したと読み取ることもできます。実際いじめだけが原因と言えないにしても不登校が増加しています。いじめを見落とさなくなった事により認知件数が増えたのであればそれを裏付ける別の数字も必要と考えます。	いじめの積極的認知が全国平均より高いことをもって、認知が進んでいると分析しました。
17	7		11	2	1	(2)	⑦	P11 ⑦人権尊重の生き方の基礎を培う教育の推進 文中に「同和問題」について明記されていることはとても大事だと感じる。「優しさ」「思いやり」の道徳では差別はなくなる。学校・家庭・地域で人権を基盤にするために、やはり教育は欠かせない。小・中学校で人権学習を位置付けて全職員が真剣に取り組むべきだと考える。差別者や被害者、傍観者の子どもを育てないために必要である。	現在町立幼稚園・小学校・中学校において人権学習を行っています。今後も引き続き行います。
18	8		11	2	1	(2)	⑦	P11 ⑦人権尊重の生き方の基礎… 「同和問題と明記されていることが重要だと思います。道徳が教科されて以降、人権学習、特に同和学習に取り組む学校が減ってきているのではないのでしょうか？義務教育で、人権学習、特に同和学習にしっかり取り組み、正しい知識と認識を持って成長していけるように、お願いいたします。	現在町立幼稚園・小学校・中学校において人権学習を行っています。今後も引き続き行います。
19	9		11	2	1	(2)	⑧	P11 ⑧グローバル化に対応する教育の推進 ALT(外国語指導助手)の派遣について小学校低学年以下と中学校については具体的な派遣時間や日数の記載があるが小学校中学年高学年については具体的な記載がないので記載したほうが良いのではないのでしょうか。またアンケート結果も全国と比較していますが施策導入前との比較もしておく方が解りやすいのではないのでしょうか。	小学校中学年・高学年は外国語・外国語活動の全時間にALTを派遣しています。 アンケートは全国学力学習状況調査内容で、全国学力学習状況調査は2007年より行われています。本町でのALTの派遣は時間数は様々ですが、2007年以前より導入しており、ALT派遣導入前との比較は難しいです。
20	9		11	2	1	(2)	⑩	P11 ⑩教職員の資質能力の向上と勤務時間の適正化 45時間超の超過勤務は一般的には労働基準監督署に事前に届けなければならないレベル、80時間超に至っては過労死ラインであり、特に中学校の教職員についてはまだまだ改善が必要な状況です。超過勤務が減少傾向であることで適正化が順調に進んでいるような記述ですがもっと危機感を持った記述が必要ではないでしょうか。	教職員の働き方改革については、今後も町教育委員会が中心となり、学校と連携して進めていきます。

番号	意見提出番号	区分	頁	章	節	中分類	小分類	意見の概要	意見に対する考え方
21	1		12	2	1	(2)	③	P12 ⑫教育課程の設備・充実 超寿命化計画を進め、毎年、少しずつではあるが設備工事により学校の耐久性をあげてくださっているのは有難い。しかし、それ以外にも早急に対応しなければいけない設備の不備や老朽化による危険箇所が各学校、多くある。超寿命化計画とは別に各学校に見に来て、真剣に検討をして頂きたい。固くて児童が押し切れないトイレの流しのレバー、老朽化により不具合が多く生じて大事な放送が届かないマイクや放送機器、十分な施錠ができない防犯上危険な学校門、雨漏りにより上からポロポロと一部が落ちてくる天井…。あげるとキリがないほどのヒヤリハットな環境が各学校には散らばっている。長く使っている校舎だから古くなって老朽化が進み不具合や危険箇所があるのは年数的にもそれ相応だが、児童は勿論、避難場所にもなっている学校も多いので地域の方の命にも関わってくるので、同時進行で学校の設備や老朽化に伴う改善を進めて頂きたい。	第4章第2節5 ①子どもも大人も学び続けるための学校教育施設、社会教育施設の適正管理と有効活用に記載のとおり、今後も施設の維持管理、安全の確保について取り組みます。
22	10		12	2	1	(2)	⑫	P12 ⑫ 教育環境の整備・充実 長寿命化計画とあわせて、教育振興基本計画の中で、その他の整備・充実についてもふれていただきたい。近年の異常な暑さで夏場の体育や部活動などの運動が難しくなっていることを考えれば、体育館へのエアコンの設置は必要になってくる。また、誰もが利用できる施設にしようと思えばみんなのトイレやエレベーターなどのバリアフリー機能の強化も必須となる。誰もが生涯にわたって学べる施設となるようこの件についても記載して欲しい。 子どもの貧困対策についての記載があるが、物価高騰が続いている状況の中で、就学援助の金額についての見直しもされるべきではないだろうか。パーセンテージは横ばいとしても、必要な金額は変わってきているはずである。また、学校教育においても必要な教材・教具の価格も上がっており、学校予算の見直しの必要がある。そのあたりの調査も実施して欲しい。	4章2節5において、条件整備について施策を記載しています。どのような整備を行っていくか学校はじめ関係各所と協議しながら進めていきます。就学援助については、国・県の動向も注視しながら支給額も含めて検討していきます。
23	4		12	2	1			P12 教育環境の整備、充実についてもふれて書いて欲しいです。 予算の問題もあるが、兵庫県下の学校施設整備が進められていると思います。 例えば、体育館の空調整備やトイレなどのバリアフリー機能の充実。 将来的に誰もが利用できる施設にするのであれば上記について記載して欲しいです。	4章2節5において、条件整備について施策を記載しています。どのような整備を行っていくか学校をはじめ関係各所と協議しながら進めていきます。
24	10		17	2	3	(1)		P17 (1) 自分と社会の形成につながる確かな学力と学び続ける意欲の育成に関する課題 確かな学力とあるが、学力についての定義を示して欲しい。	「学力」については、いなぼう学力アッププランにて示しており、P9の二次元コードより確認できるようになっております。
25	1		17	2	3	(1)	④	P17 ④インクルーシブ教育 文科省4. 27通知で示された分離につながるようなのはインクルーシブではないと考える。、猪名川町は、児童の実態、児童・保護者の思いを大切に、状況によって柔軟な対応をしてくれている。とても素晴らしいことだ。このまま、児童の実態、児童・保護者の思いを大切に教育方針を続けてほしい。同じ場で学び、生活し、互いのことを理解し、互いに成長し合う関係こそが、真のインクルーシブ教育だ。共にこの町で生きていくという理念の元に続けてほしい。	第4章第2節4 ②インクルーシブ教育システムの推進 として今後も引き続き取り組みます。
26	7		17	2	3	(1)	④	P17(1)④インクルーシブ教育について、文科省の通知による個別学習半数以上をすることは、国連から違法だと指摘があるように「障害者は排除していい」と子どもに認識させているのと同じだ。分離につながることはやめていただきたい。その子は地域でこれからも生き続ける。ともに生き、ともに学ぶ環境、つまり頼り頼られながらいっしょに生きていく学びの場をつくることこそ、やるべきことだと考える。	第4章第2節4 ②インクルーシブ教育システムの推進 として今後も引き続き取り組みます。
27	8		17	2	3	(1)	④	P17 ④インクルーシブ教育システムがさらに整備・充実… 「文科省の通知で示された個別学習を必ず半数以上実施し、国連からも指摘されているような分離に繋がるようなことはやめてください。どの子ども（生徒）にとっても、社会で生きていくための学習・体験の場として学校はあると考えます。クラスの中で共に学び体験しながら、個に応じて必要な個別学習を計画実施してください。	第4章第2節4 ②インクルーシブ教育システムの推進 として今後も引き続き取り組みます。
28	10		17	2	3	(1)	④	④「インクルーシブ教育システムがさらに充実・発展すること」とあるが、文科省の4. 27通知で示されたような個別学習を必ず半数以上実施し、国連からも指摘されているような分離につながるようなことはやめていただきたい。個の能力を伸ばすことも重要であるが、社会で生きていこうとすればともに同じ場で学び、生活し、そこで互いのことを理解し、成長することが何よりも重要だと考える。猪名川町ではインクルーシブな町をめざすという意味でもシステムをとって、「インクルーシブ教育」と表記していただきたい。	「インクルーシブ教育システム」は国の教育振興基本計画を参酌した表現ですので、修正は行いません。
29	7		18	2	3	(2)	①	P18(2)①「いじめ」というより「差別」の方がよいのではないかと。	本町では「いじめ」を課題としてとらえており、表現はこのままとします。

番号	意見提出番号	区分	頁	章	節	中分類	小分類	意見の概要	意見に対する考え方
30	10		18	2	3	(2)	①	P18 (2) 自分と他者の命と人権、さまざまな価値観や文化を大切に育む豊かな心の育成に関する課題1「いじめ」のことが記載されているが、子どもから大人までを対象としたとき、ここは「差別」ということではないだろうか。いじめを許さない・なくしたいという意味はよくわかるが、いじめを差別と置き換えても通じる。また、単に理念だけではなく、そういった意識を持つための方策も計画には記載する必要があるのではないか。	本町では「いじめ」を課題としてとらえており、表現はこのままとします。
31	7		18	2	3	(2)	②	2「多様性が配慮されている」という表現は違和感を抱く。多様性が「認められている」のではないか。。	「多様性が配慮されている」を「多様性に配慮されている」に修正します。
32	10		18	2	3	(2)	②	2「自らの多様性が配慮されている」→「認められている」の方がより踏み込んだ表現でふさわしいのではないかと考えます。	「多様性が配慮されている」を「多様性に配慮されている」に修正します。
33	10		18	2	3	(4)	①	P18 (4) 猪名川町の教育の基盤整備に関する課題 ①「学びの伴走者である教員」という記述についてですが、学校現場では教員だけでなく、様々な職種の方たちと協力し、チーム学校として学校教育にとりこんでいますので、表記を「教職員」にかえていただきたいと考えます。P39は全て「教職員」と記載されています。	「教員」を「教職員」へ修正いたします。
34	4		18	2	3	(4)	①	P18 細かい事ですが、1学びの伴走者である教員と書いている部分の教員ではなく、『教職員』と言う表記ではないでしょうか。 教員だけでなく学校現場は、多くの職員にも支えられ子ども達は学んでいます。 猪名川町の教育発展を願います	「教員」を「教職員」へ修正します。
35	7		18	2	3	(4)	②	(4)②「貧困など経済的・地理的状況」とあるが、外国籍の人や日本国籍だが日本語が話せない人、障害のある人なども含む記述にしていただきたい。	4章2節4 誰一人残さず、一人一人の可能性を引き出す共生社会の実現 の中で、様々な状況の人について記載していますので、変更しません。
36	10		18	2	3	(4)	②	②「貧困など経済的状況や地理的状況に左右されることなく、安心して学べる」とあるが、外国籍の方や日本国籍だが日本語が話せない方、また障害のある方など、そういった方たちも含まれるような記述としていただきたい。	4章2節4 誰一人残さず、一人一人の可能性を引き出す共生社会の実現 の中で、様々な状況の人について記載していますので、変更しません。
37	6		19	3	1	(3)		P19 (3) 未来を描き、未来を拓き、未来をつくる 5行目末からの、【私たちの未来が、猪名川町と世界の未来が「つくりたい未来」となるために、・・・】 こちらの文章については、【未来が】の繰り返しの上、さらに【未来】とつづくため、意味が分かりづらいです。この文章全体を通して推測すると、【私たちの未来が】というのは、私たちの望む未来の姿は、猪名川町とこの世界（現次元的、あるいは地球規模≒世界中）が融合しつつ（或いは共に）、つくりあげていきたい未来のありかた（形、姿）というものを表現したいのでしょうか？ 読んだところ、すっと理解しがたいため、平易に表現してください。ご参考までに、P31の3 猪名川から始まるグローバルな学び の最終行では、地域の学びを世界や地球全体の学びへとつなげま とあります。（※こちらの文章、つなげま で終わっています。【す。】が切れています。）	やや詩的な表現となっておりますが、このままの表現とし、修正しません。 P31 3について、末尾「す。」を追記し、修正します。
38	6		19	3	1			要所に映画や著名人の言葉が取り込まれ、これまでの教育振興基本計画とは違った、ストーリー性を感じる、こだわりをもって作成された基本計画であると拝察いたします。 こちらの教育振興基本計画を読んで、猪名川町が目指す教育のあり方に、大変希望がもてる内容であり、時間をかけてご審議くださった関係者のみな様には心より感謝申し上げます。  P19 第3章 猪名川の教育が目指す方向 以降、未来という漢字に対してのみルビが振られており、本来ではない読み方で“あす”と記載されているのには、そこに何らかの意図があることと拝察いたします。 “あす”とルビを振ることについては、策定委員会の中で議論され、合意形成の上での計画（案）であると思いますが、行政執行機関が発行する公式な計画書という性質と、本計画書が猪名川町の住民に向けた計画書であると同時に、実際には不特定の方々が目にするということから、他の漢字と同様に、“未来”についてもルビをつけなくてもよいと思います。 “未来”という漢字にルビを振ることで、その漢字が“あす”として認知されることとなります。 “未来”を“みらい”ではなく、ルビを振って“あす”と意図的に読ませることで伝えたい意図があるのでしたら、その想いをルビに託すのではなく、別に記載してください。別に記載することで、より理解されることもあるのではないかと思います。 また、猪名川町の教育ナビゲーションなど、“未来”を“あす”と記載されているものがありますが、次年度から一新される教育振興基本計画に併せて、そちらのご検討も一言添えさせていただきます。	「未来」に「あす」とルビを振っている部分については、下記のような意味を含めています。その思いがきちんと伝わるよう、目次2ページ目の下部等に、下記の内容を追記します。そのため、本文中の表記は変更しません。  「未来」の読み方・考え方について 第3期猪名川町教育振興基本計画において、基本理念にでてくる「未来」という表記については「あす」とルビをつけています。 「未来(あす)」には自分自身の時間的にはるか遠い将来の「未来(みらい)」だけではなく、近い先を見通した「明日(あす)」の意味を含めています。 本計画に記載のある内容については、一人ひとりが自分ごととしてとらえ、「未来」について読み方や考え方などを、ぜひ様々な人と話題にして、交流するきっかけになってほしいと思います。そして、それぞれの「未来」について思いをはせ、それぞれの「未来」をつくってほしいと考えています。

番号	意見提出番号	区分	頁	章	節	中分類	小分類	意見の概要	意見に対する考え方
39	10		21	3	1	3		<p>第3章 猪名川の教育が目指す方向 第1節 基本理念 P21 視点③ 人との関わりと体験が成長を支える 体験活動の大切さが述べられていますが、これまでの「いなぼう学力アッププラン」から感じる学力のあり方とは大きく違うような印象を受けます。体験学習は重要ですが、実施のためには時間と費用がかかります。学校園では教育課程の見直しも必要となります。猪名川町が考える学力を定義し、新たに上乘せるのではなく、スクラップ&amp;ビルドでの計画をお願いします。</p>	<p>視点3は学校教育に限定されたものではありません。また、学校教育では、これまでも体験活動は実施してきており、これまで策定している「いなぼう学力アッププラン」の趣旨にそぐわないものではありません。</p>
40	3		35	4	2	1	④	<p>第2節 施策の内容 P35 1生涯学ぶ喜びをみんなで感じられる 人生100年時代の教育づくり ④ 地域の情報活用能力の向上 地域のICT教育を推進とありますが、学校ではまだまだICT環境の整備が十分とは言えません。学習で使用するタブレットはiPadと違って非常に使用しづらく、充電器も専用のものしかないため学校でしか充電できません。また、授業にも生かしづらいです。学習アプリのスクールタクトやロイロノートなどの使用を検討すべきだと思います。これからの社会でこの能力はますます必要となってくるため、考えには賛同いたします。子どもたちの情報活用能力が他市と比べて劣ることがないよう環境整備についても計画を記載し、実行していただきたいです。</p>	<p>学校内でのICT環境等については、第4章第2節5 ⑦にも記載のとおり、今後もICT環境の充実を図っていきます。</p>
41	1		35	4	2	1	④	<p>P35④地域の情報活用能力の向上 地域のICT教育の推進とあるが、その先端にいるべきはこれからの未来を担っていく子どもたちであるべきと考える。その子どもたちが持っているタブレット、子どもたちが受ける教育を担う教職員のICT環境設備が十分でないことはとても残念です。エラーが多く、また一般の大人が使っているノートパソコンよりも重たい児童タブレットは、使いづらく、ICT教育の推進・向上には繋がりにくいものです。また、教職員のパソコンはバッテリーが古く充電がきちんとできなかつたり、セキュリティが強すぎて授業に使うコンテンツが繋がらない・研修の講師の先生にメールでデータを送ることもできない状況です。毎回、サイト閲覧の申請を出す、データの送信の不具合をヘルプデスクに相談するのは非常に難しく、パソコンを使うものは諦めがちです。セキュリティが強いのは良い事だが、使えなければ元も子もない。セキュリティの緩和、または使えるコンテンツの充実や紹介(ブロックがかからないもので教科で使える動画などのリストなど)をしてもらえると、もっと気軽にいろんな教員がICTを活用した授業ができる。教員の使用頻度が増えると自然と児童や学校全体もICTへの活用が進むと考える。不具合が多いネット環境(パンクすること多いです。)も含め、使いやすい環境整備を具体的に考えてほしい。</p>	<p>学校内でのICT環境等については、第4章第2節5 ⑦にも記載のとおり、今後もICT環境の充実を図っていきます。</p>
42	10		35	4	2	1	④	<p>P35 1生涯学ぶ喜びをみんなで感じられる 人生100年時代の教育づくり ④ 地域の情報活用能力の向上 地域のICT教育を推進とありますが、学校ではまだまだICT環境の整備が十分とは言えません。しかし、これからの社会でこの能力はますます必要となってくるため、考えには賛同いたします。そのための環境整備についても計画を記載し、実行していただきたい。</p>	<p>学校内でのICT環境等については、第4章第2節5 ⑦にも記載のとおり、今後もICT環境の充実を図っていきます。</p>
43	6		35	4	2	1		<p>P35 2段落 【幼児期は家庭を中心に、小中学生、高校生は共同生活をする学校を中心に、子どもらしい感性を磨きながら自立に向けた成長を促す場づくりを進めます。】について、子どもらしい感性を磨く時期は幼児期にあるので、文章としては、「幼児期は家庭を中心に子供らしい感性を磨き、小中学生、高校生は共同生活をする学校を中心に、自立に向けた成長を促す場づくりを進めます。」ということでしょうか。ご検討ください。</p>	<p>子どもらしい感性は幼児期のみにあるものとは考えておりませんので、このままの表現とします。</p>
44	2		36	4	2	2	④	<p>P36 2 子どもの育ち・学びを支える家庭・学校・地域の協働 4 地域クラブ活動の推進 部活動の地域クラブ活動への移行について、業務改善である面は理解するが、まずは子どもたちに不利益のないように計画していただきたい。計画より先に動き出している感じが否めない。今の中1の子達は先が見えない状態で取り組まざるをえない。変化の大きいことであるので、もう少し時間やお金を県や自治体にかけてほしい。どのように取り組むか、金額をいくらかけるのか全て親任せのように感じる。今まで、子どもたちが平等に、差を感じないように学校は取り組んでいたように思うが、急に家庭による差がすごく大きくなるのではないかと。色々と考えられているかと思うが、思い切った予算を公教育の続きとしてかけていくべきことではないだろうか。</p>	<p>部活動の地域クラブ活動への移行については、様々な面に考慮しながら進めていきます。</p>

番号	意見提出番号	区分	頁	章	節	中分類	小分類	意見の概要	意見に対する考え方
45	10		36	4	2	2	④	P36 2 子どもの育ち・学びを支える家庭・学校・地域の協働 ④ 地域クラブ活動の推進 部活動の地域クラブ活動への移行について、学校現場ではありがたい思いもあるが、まずは子どもたちに不利益のないように計画していただきたい。また、今後長く続けていけるような体制が築けるよう努めていただきたい。	部活動の地域クラブ活動への移行については、様々な面に考慮しながら進めていきます。
46	6		36	4	2	2		P36 2 子どもの育ち・学びを支える家庭・学校・地域の協働 6行目 【学校は「地域と共にある学校」へ学校と地域が共に考え共に行動する協働体制を築いていきます。】について、読みづらいため読点を加えるなどご検討ください。一例として、「地域と共にある学校」を目指し、学校と地域が共に考え行動しながら、協働体制を築いていきます。	「学校は「地域と共にある学校」へ学校と地域が共に考え共に行動する協働体制を築いていきます。」を「学校は「地域と共にある学校」へ、学校と地域が共に考え共に行動する協働体制を築いていきます。」に修正します。
47	6		36	4	2	2		P36 8行目から 【中学校の部活動の地域クラブ活動への移行については、丁寧に地域の意見を尊重し条件整備を図りながら（略）】とありますが、当事者である生徒とその保護者の意見については、地域として一括りの表現ではなく、明確に記載はされないのでしょうか？	地域クラブ活動は、地域に根差した活動として児童・生徒またその保護者を含む地域の方々を対象となる活動を目指しているため、このままの表現とします。
48	10		37	4	2	3	①	P37 3 猪名川から始まるグローバルな学び ① 「猪名川学」のデザインとマネジメント 教育課程に盛り込むとの記載がありますが、学校現場で見通しが立つよう丁寧な説明と準備までの時間が必要だと考えます。モデル校でまずは実施するなど計画的な実施をお願いします。	今後、本計画に沿って、学校への丁寧な説明を行いながら、円滑に進めていきます。
49	10		37	4	2	3	⑤	⑤ グローバル教育の推進 「多様な文化に興味を持つ」とありますが、まずは興味を持ち、知り、そして理解することが重要だと考えます。そうでなければ、紛争や対立、ジレンマを受け止める段階にはならないと考えます。	⑤グローバル教育の推進 について、 「多様な文化に興味を持ち、世界各国の人々と自由に交流できるコミュニケーション能力や新しい価値を創造する能力を身につけ、多様性を理解し、国際社会の一員として活躍する人材の育成に取り組めます。」に修正します。
50	7		38	4	2	4		P38-4 「障がいを支え合う」という表現はおかしいと感じる。その人を困らせているバリアが「障害」であり、この記述だとその人自身の持つ障害が悪いことのように受け取れる。障害のある、ないに関わらず、みんなで支え合う社会を目指すのがインクルーシブ教育ではないか。	「障がいを支えあう」を「障がいの有無に関係なく」に修正します。
51	10		38	4	2	4		P38 4 誰一人取り残さず、一人一人の可能性を引き出す共生社会の実現 L2. 「障がいを支え合う」という表現に違和感がある。障がいの有無に関係なく、それぞれの個性を大切に、皆で支え合う社会をめざすのがインクルーシブ教育ではないだろうか。この表現だと障がいのあることが社会参加への壁となっているように読みとれる。障がいがあっても当たり前前に生活できる猪名川町をめざしてもらいたい。 L3. 「言葉の違いを超えてつながる多文化共生や国際理解の教育」という表現は軽い印象があります。「言葉の違いを超えてつながる」だけでは表現し切れないものかと。 L12. 「学校に行きづらい生徒」→児童生徒、もしくは子ども この表現だと中学校を対象にしているように思えます。中学校だけに限ったことではありません。	1. 「障がいを支えあう」を「障がいの有無に関係なく」に修正します。 2. 「言葉の違いを超えてつながる」を「言葉の違いや互いの文化的違いを認め合う」に修正します。 3. 「学校に行きづらい生徒」を「学校に行きづらい児童・生徒」に修正します。
52	10		38	4	2	4	②	② インクルーシブ教育システムの推進 共に学んだり、活動する機会 →意図的なものであればいいのですが、「共に学んだり、活動したりする機会」では？他にも同様の記述があり、気になりました。 「生活や活動におけるユニバーサルデザインをさらに進めます」とあるが、施設・設備面のバリアフリー化は必要となる。予算の関係でいきなり全部は難しいが、計画的に実行していくという方針についても記載して欲しい。	「共に学んだり、活動する機会」を「共に学んだり、活動したりする機会」に修正します。 施設・設備面のバリアフリー化等については、どのような整備を行っていくか学校はじめ関係各所と協議しながら進めていきます。
53	10		38	4	2	4	④	④ いじめ問題の積極的な対応 「いじめは絶対に許されない意識」→許されることではない いじめは当然よくないことですが、その意識の浸透のためという表現はいかがなものかと思えます。第11にすべきはそういった心を家庭、地域、学校で連携しながら育てることではないでしょうか。浸透させるためにいじめアンケートや教育相談をおこなうことは違うと思えます。これは未然防止や早期発見、起こってしまったときの対応です。浸透のためにやるのであれば、脅しと変わらないのではと思ってしまう。	「いじめは絶対に許されない意識の浸透のため」を「いじめは絶対に許されないという強い認識を持ち」に修正します。

意見提出番号	区分	頁	章	節	中分類	小分類	意見の概要	意見に対する考え方
54	8	39	4	2	5	①	P39 ⑤ 終身成長（学び続けること）を支える条件整備の1 「高齢者も学びに集えるように、設備の充実や安全を充足させていただきたいです。体育館にエアコンの設置、各学校や施設のバリアフリー機能。また、本町は車でないと行きにくい場所が多いので、運転免許返納者や免許を持たない人も自由に行動出来るよう、路線バスやふれあいバスの増便を進めていただきたいと強く願います。	教育施設について、どのような整備を行っていくかについては、学校を関係各所と協議しながら進めていきます。路線バス・ふれあいバスについては町全体の課題のため、ご意見としてお伺いします。
55	10	39	4	2	5	②	P39 5 終身成長（学び続けること）を支える条件整備 ① 子どもも大人も学び続けるための学校教育施設、社会教育施設の適正管理と有効活用 「誰もが生涯にわたって、安全・安心な環境で学んだり、スポーツや文化活動ができるよう、学校教育施設や社会教育施設の適切な維持・管理、長寿命化、安全性の確保や利用しやすさの向上」 安全性の確保の部分になるが、近年の異常な暑さで夏場の屋外での体育や部活動などの運動が難しくなっていることを考えれば、体育館へのエアコンの設置は必要になってくると考える。また、誰でも利用できる施設にしていけるためにも計画的にバリアフリー機能も充足させていってほしい。	教育施設について、どのような整備を行っていくかについては、学校を関係各所と協議しながら進めていきます
56	7	39	4	2	5	②	P39-5② 教職員の働き方について記載していただいているのは大変ありがたい。しかし、教育課程の見直しだけではどうしようもない状況にある。実行力があるものにするためにも、町教委がリーダーシップを発揮し、誰が、どのように取り組むのか具体的に示し、改革を進めていただきたい。	教職員の働き方改革については、今後も町教育委員会が中心となり、学校と連携して進めていきます。
57	10	39	4	2	5	2	② 教職員の働き方改革による適正な職場環境づくり 教職員の働き方について記載していただいていることは大変ありがたい。これを進めていくことが子どもたちの学びにも必ずプラスとなる。ただ、教育課程の見直しだけではどうしようもない状況になっており、適正化も進まない。実行力あるものにするためにも町教委がリーダーシップを発揮し、改革をすすめていただきたい。誰が、どのように取り組むのかをもっと具体を入れて記載していただきたい。	教職員の働き方改革については、今後も町教育委員会が中心となり、学校と連携して進めていきます。
58	6	全体					第3期猪名川町教育振興基本計画（案）の策定にあたり、教育委員会及び策定委員のみなさま方におかれましては、お忙しい中、人生100年と言われる時代、教育を通じて、猪名川町に暮らすあらゆる世代の人々が、「終身成長」を遂げ、豊かな人生を送ることができるよう、議論を尽くしていただき誠にありがとうございます。また、猪名川町には、カラーユニバーサルデザインガイドラインが設けられていませんが、色覚シミュレーターで確認いたしましたところ、視覚的にも見やすい色彩でございました。	計画書の色合いについてご確認いただきありがとうございました。
59	6	全体					OP1 第1節 計画の趣旨のタイトルは、【猪名川で学び、未来をつくる】ですが、この、猪名川で学びという記載について、猪名川町という町域の学びにとどまらず、猪名川という広域の学びを意図しているのでしょうか？1段落1行目では、猪名川町で学び暮らす・・・と記載されており、3段落1行目も猪名川町のこともからおとなまでの記載ですが、4段落1行目では「第3期猪名川町教育振興基本計画」は、猪名川の教育の「新しい未来型」を示すものです。と記載されています。策定委員会内でも、猪名川と猪名川町の記載について議論がなされた場面がありました。これ以降のページでも、猪名川町と猪名川の混在がありますが、それについて、策定委員会で議論された意向を知る由もございませんが、猪名川町と猪名川の表現の違いには何かしらの意図があるのでしょうか？ それぞれの記載について、違和感のないところもあれば、違和感のあるところもあります。猪名川と猪名川町の混在についてご確認ください。 P3 1行目 猪名川町で育ち猪名川町を創る、P4 3行目 猪名川町の未来の / 7行目 猪名川町が15歳以上の / 第5節 計画の期間の3行目末から 猪名川の教育ナビゲーション、P7の2段落3行目 猪名川の教育 / 4段落1行目 猪名川町における教育、P15 第2節 社会の現状と猪名川町の教育 / 1行目 猪名川町の教育のあり方 / 1人口減少と少子高齢化の進行1行目 猪名川町が / 2行目 猪名川町の / 8行目 猪名川町の教育に / 3家庭の姿の変容・・・2行目 猪名川町の教育において、P17の第3節 猪名川町の教育課題 / 3行目「第3章 猪名川の教育が（略） / 9行目 猪名川町になる、P19 第3章 猪名川の教育が目指す方向 / 第1節 基本理念 猪名川で学び、未来をつくる / (1) 猪名川を知り、猪名川で学び、猪名川をつくる / 1行目 この猪名川町の緑っぱいの / 6行目 猪名川町には学びの場が、 / 8行目 猪名川町全体を舞台にして、 / (2) 足元を考え、地域で行動し、世界を変える の5行目 私たちの足元、地域、猪名川町を創造拠点として、 / (3) 未来を描き、未来を拓き、未来をつくる 5行目末からの、私たちの未来が、猪名川町と世界の未来が「つくりたい未来」となるために・・・、P25 1 猪名川町の推し、P27 3行目 猪名川町の希望に・・・、P28 第3節 猪名川の教育が目指す育ちの姿、P29 1行目 『猪名川で学び、（略）』に基づき、猪名川の教育が（※1行目と2行目の行間が他と違います） / 4行目 猪名川の教育を、P30 （基本理念の）猪名川で学び、未来をつくる、P31 3 猪名川から始まるグローバルな学び / 1行目 猪名川町の自然や・・・、P32 第1節 タイトル下 一猪名川で暮らす・・・ / 5行目 猪名川で暮らす、P33 「猪名川」×「学ぶ喜び」（略） / 1行目 猪名川が抱える諸課題、 / 2段落1行目 猪名川を持続可能で / 2段落3行目 猪名川をつくっていく責務 / 2段落4行目 猪名川にしっかりと / 3段落1行目 猪名川をどうしていきたい / 3段落2行目末 猪名川のことを / 4段落2行目 猪名川の各地で、P34「猪名川」×「好奇心」（略） / 1行目末 猪名川での毎日の / 2行目 猪名川のまち全体を（これは、猪名川町全体をと記載？） / 4行目 猪名川のことを（略）猪名川は、大都会から・・・ / 7行目 猪名川のヒト・モノ・コト / 12行目 猪名川のことを学習 / 13行目 猪名川の抱える課題を / 17行目 猪名川から始まった学びの、P35 私たちが取り組むこと1猪名川を生かした学びの機会の創出 / 1行目 猪名川町の歴史、P37 3猪名川から始まるグローバルな学び / 1「猪名川学」のデザインとマネジメント 1行目 猪名川の自然文化資源 / 3行目 猪名川を体験フィールドとする / 4行目 猪名川の地域資源を、P38 4行目 共生社会「猪名川」を目指します。、P41 4行目と2計画の見直しの2行目 「猪名川の教育ナビゲーション」（HPと冊子と相違） / 11行目 「猪名川の教育」の充実	各種計画の名前や、行政区分として必要な場合は「猪名川町」と、それ以外の場合は「猪名川」と表記します。そのため、これに当てはまらない部分については修正します。

番号	意見提出番号	区分	頁	章	節	中分類	小分類	意見の概要	意見に対する考え方
60	10		全体					<p>全体を通して            前回と比べ、全体的に読みやすくなっていた点はよいと感じた。しかし、とりくみ一つひとつに具体が感じられなかったためぼんやりとしたイメージを持った。これから子ども、地域、学校に丁寧に説明しながら実行してもらえれば、町みんなで作り上げるよいものになるのではないかと感じた。それぞれの考えや思いを大切にすすめていただきたい。</p> <p>地域との連携や地域の協力を重きを置かれているが、地域の意識はどうか気がなった。同じような思いでいらっしゃるのか。本計画に記載されていることを実施していくためには、やはり地域が重要となる。その部分の乖離はないようにしておく必要がある。</p>	<p>具体的な取り組みについては、本計画に基づき、毎年「猪名川の教育ナビゲーション」にて示していきます。</p> <p>地域との連携については、全学校園にコミュニティ・スクールを導入しており、様々な面で連携しております。</p>